

3) 精神薄弱等評価事項

資料出所
東京都心身障害者福祉センター
「心身障害者の援助技術書
精神薄弱科業務指針」

表2-1

相談票

面接日 年 月 日 同行者

面接者

ア・ス・№	氏名(ふりがな)	男女	年 月 日生 (才)	障害程度 IQ() MA(:)	愛の手帳 有(変)・無				
現住所	電話		最寄駅	福祉(事)担当者					
来所経路									
就学歴	昭和 年 月 卒業・中退(辞・特) 学校名								
生 介 介	0 5 10 15 20 25								
	通 車(才 か月) 通 船(才 か月)								
職 業 経 歴	期 間	事業所名	作業内容	従業員 (MR)	所在地	出勤状況	給与	退職理由	紹介者
	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
実 況 状 況	一 般 職 業 適 性 検 査	日本職業指導協会 労働者 職業適性検査	検査項目	粗点	適性点 (基準53)	日 常 生 活	身辺処理		
			A 目と手の対応				家事参加		
			P 形態知覚				金銭処理		
			M 手の器用さ				移動能力		
			T 速 度				表現力		
			M マグボード さしこみ		一般平均 79		理解力		
N マグボード さしかえ		88	その他						
健 康 状 況	疾病	身 体 状 況	身長	cm	性 格 ・ 行 動 特 徴				
	服薬		主治医 ()	体重			kg		
	重複障害			握力			右 kg 左 kg		
	その他			聴力			右 左		
				視力			右 左		
相 談 所 見					指 導 目 標 (通 過 上 の 留 意 点)	訓 練 期 間 (才 月) 担 当 者 (:)			

表2-2 職業適性検査実施方法

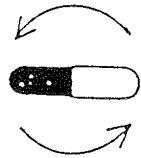
(この表は右手用のものである。左利き手の場合、欄内の左右が全て逆になる)

検査種目	略号	適性能	必要用具	必要な準備	教示	下位検査での観察事項	下位項目の粗点の出し方
狙準検査	A	目と手の共通	各検査器具・ストップウォッチ・記録用紙	<ol style="list-style-type: none"> 狙準盤の下に用紙をそう入(固い紙質のものはさける)。 机の前に腰かけさせる。 狙準盤を被験者の前におく。 鉄筆を渡し、持たせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1と書いてある穴にこれを(鉄筆を示す)つきさして下さい。 はつきり穴があいたかどうかたしかめする。 11番目の穴まで練習させる。 用紙を入れかえる。 今度は今までやったことをできるだけ速くやして下さい。時間は30秒です。始め…30秒後…止め <p>注意1. 練習用穴を使うと検査時も同様にしてしまうので1から始めた方がいい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 10番目以内の練習だと行かえるのとまどろみで必ず11番目まで練習させること。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1の穴から始めたか。 2. 確実に穴があいているか。 3. 番号順にぬかささないでやれたか。 4. 鉄筆先及び手のふるえがなかったか。 	1の番号のついている穴から数え、あいている穴の合計数を粗点とする。
型盤検査	P	形態の知覚		<ol style="list-style-type: none"> 1. 机の前に腰かけさせる。 2. 練習用器を被験者の前におく。 3. 小片を左側におく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. (小片をみせ) ここにいろいろな型をしたものがあります。これと同じ型のものが、この中に(練習用器を示す)きり入るようになって入っているので入れて下さい。 2. (練習用器に余て入れた後) よくできました。今度はもつと決山あるから頑張ってください。時間は80秒です。始め…80秒後…止め 	<ol style="list-style-type: none"> 1. まちがった位置においた時、すぐ訂正しようとしたか。 2. まちがった場所にもわりやり入れようとしなかったか。 3. 一部に固執せず全体的にとらえらえることができたか。 	まちがいに多く入れた小片の数をかぞえて、その数を粗点とする。
棒	M	手		<ol style="list-style-type: none"> 1. 机の前に立たせる。 2. 検査器具を被験者の前におき、小棒の入っている箱を器具の前の金具にはめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. この箱に入っているものを1本ずつ取り出して右手だけで穴にさして置いて下さい(左から右の小穴へとさしていくのをやってみせる)。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 器具の端を左手で押さえたか。 2. 部品を同時に2本以上もたななかったか。 	さした棒の数をかぞえてその数を粗点とする。1度さした棒がぬげ落ちたものも採点に入れる。

日本職業指導協会編

労働省編	ペグ・ボルド	M	各検査器具	<p>1. 機の前に立たせる。 2. 検査器具を、被験者の前におく(棒は、赤く塗った部分を上向きにして検査盤上部にさしておく)。 3. 検査盤の下端と機の端を合わせる。 4. 1回終了度に、次に移るために、全部戻す又は下部に全部戻し、180度回転させる。</p>	<p>2. 左手で器具の左下をおさええるように指示する。 3. 棒が落ちてもそのままにしておいて、もう一度さし込まなくてよいです。 4. 15本終了後、行をかえて1からさしていくことを指示する。 5. 17本練習させる。 6. それでは今度はできるだけ沢山さして下さい。時間は2分です。 始め…2分後…止め</p>	<p>3. 器具をさす順序をまぢがえなかつたか。 4. 落ちたところに再度入れなかつたか。 5. 3本以上小棒を落とすことはなかつたか。 6. 手の震えはなかつたか。</p>	<p>1. 親指と中指で器具レバーをはさみ、人指指をレバー上端にあてがわせたときまです。左手で器具の端を押さえまです(やってみせる)。 2. レバーをきちんと上まであげないと数字がふえ、えこないことを知らせます。 3. 練習をやってみて下さい(5、6秒させ)。きちんと押せるようにならなければ、検査器具の数字を0に戻す。 4. 今度ではできるだけ沢山数字がでるようになって下さい。時間は30秒です。 5. たたく速さがおとろえたらはげます。 始め…30秒後…止め</p>	<p>1. さしこみの位置をまぢがえなかつたか。 2. 左右の動きに著しい差があつたか。 3. 穴へのさし込みがスムーズであつたか又ははいちいちひつかなかつたか。 4. 各回に著しいちがいがみられたか。 5. 各回に意欲的に課題意識をもってとり組んだか。</p>	<p>1. 途中で一瞬手が止まることはなかつたか。 2. 途中で音が荒っぽくなることはなかつたか。 3. 器具の端を左手で押さええたか。</p>	<p>検査盤の上半部から下半部にさし込んだ棒の数をもつて得点とする。 3回行なつた検査の合計数となる。途中で抜けた棒、倒したりした棒も得点とみなす。 止めの合図で抜きとつても下部にさし込まれていないものは得点としない。</p>	<p>押したいた数を粗点とする。</p>
------	--------	---	-------	--	--	--	--	---	--	---	----------------------

検種 査目	略 号	適 性 能	必 用 要 具 な 具	必 要 な 準 備	教 示	下位検査での観察事項	下位項目の粗点の出し方
さし込み検査			ストップウォッチ	せるなりして準備する必要がある。	<p>5. 48回練習させる。指示どおりでない場合はそのつど具体的に注意を与える。(例えば、まちがった行から抜いたら「これをとりなさい」等)</p> <p>6. 同一条件で3回くり返すことを告げる。時間は告げない(15秒である)。</p> <p>7. 検査時間はとも短いですが最初から余力をつくしてできるだけ速くして下さい。</p> <p>8. 1用意(両手を伸し、指を最初の棒の上に置かせ) 始め…15秒…止め。1これを3回くり返す。2回目1もう一度同じことをします。3回目1これで最後ですから一生懸命いいて下さい。各回開始前教示する。</p>	<p>1. さしかえの順序はまちがえなかったか。</p> <p>2. 手の動きはスムーズでであったか。</p> <p>3. 各回に著しいちがいがみられたか。</p> <p>4. 各回に意欲的に課題意識をもってとり組んだか。</p>	<p>検査盤下半部において棒を抜き同じ穴に上下を逆にして返した棒の数をもつて得点とする。</p> <p>3回行った検査の合計数となる。途中で抜けたり倒したりした棒も得点とみなす。</p> <p>「止め」の合図で抜きと替えてもいいものは得点としない。</p>
ベグ・ポード	N	指先の器用さ	記録用紙	<p>1. 机の前に立たせる。</p> <p>2. 検査器具を被験者の前におく。(棒は全部下部にさしておく)</p> <p>3. 検査盤の下端と机の端を合わせる。</p> <p>4. 1回終る度に次に移るための準備が必要である。</p>	<p>1. 右手だけを使って検査盤にさしてある棒をひっくり返してくたさい。つまり棒を穴から抜いて逆転させ元の穴へさします。棒の色は反対になる訳です。以下やってみせながら</p> <p>2. 棒の最上列の左端から始めて右の方向へ一本づつさし替えていき、1列が終ったら第2列目の左端から右の方向へと行ないます。</p> <p>3. 途中で棒を落としても拾わずその穴は1つとばしてそのまま続けなさい。</p> <p>4. 練習をさせる(棒のかえし方は建前は逆時計まわりであるが被験者の好きなようにさせてかまわない。棒の色は赤・白いずれでも同一であればよい)。</p> <p>5. 同一条件で3回することをつける。時間は告げない(30秒である)。</p>	<p>検査盤下半部において棒を抜き同じ穴に上下を逆にして返した棒の数をもつて得点とする。</p> <p>3回行った検査の合計数となる。途中で抜けたり倒したりした棒も得点とみなす。</p> <p>「止め」の合図で抜きと替えてもいいものは得点としない。</p>	



かえし方

	さ	し	込	み	検	査	<p>6. 検査時間はとても短いですが、最初から全力をつくして下さいと言おう。</p> <p>7. 「用意（右手を伸ばし最初の棒の上に置かせ）始め…30秒後…止め」これを3回くり返す。2回目「もう一度同じことをします」3回目「これで最後ですから一生けんめいして下さい」を各回開始前教示する。</p>		
--	---	---	---	---	---	---	---	--	--

※ 「改訂版 標準一般職業適性検査実施の手引」(財)日本職業指導協会、「労働省編 一般職業適性検査手引」参考

職業適性検査評価表

表2-4

ケース番号

氏名

検査日

検査者

(歳) 平成 年 月 日

主 訴	I Q	合 併 障 害	利手	握 力
		なし あり：てんかん、聴力、視力、上肢、下肢 その他（)	右 左	右 kg 左 kg

日 本 職 業 指 導 協 会 編

検査名	狙 準 (A) 目 と 手 の 共 応	型 盤 (P) 形 態 知 覚	棒 さ し (M) 手 の 器 用 さ	速 度 (T) 運 動 速 度		
時 間	30秒	80秒	120秒	30秒		
粗 点 一般比	/ 49 = %	/ 17 = %	/ 69 = %	/ 182 = %		
適性点	*	*	*	*		
観 察 事 項 () 内 に チ ェ ッ ク	<input type="checkbox"/> 1の穴から 始めなかった <input type="checkbox"/> 確実に穴が あいていない <input type="checkbox"/> 番号順に穴 があいていな い <input type="checkbox"/> 手の震えが あった	<input type="checkbox"/> 間違っ た所に無理 に入れよう とした <input type="checkbox"/> 間違っ て置いて も、訂正 しない <input type="checkbox"/> 一部に固 執し、全 体的にと らえられ ない	<input type="checkbox"/> 部品を同 時に2本 以上持 った <input type="checkbox"/> 部品をさ す順序を 間違え た <input type="checkbox"/> 落ちた 所に再 度入れた <input type="checkbox"/> 3本以 上落 とした <input type="checkbox"/> 手の震 えがあ った	<input type="checkbox"/> 器具の 端を片 手で押 さえな かった <input type="checkbox"/> 途中 で手を 休める ことが あ った <input type="checkbox"/> 途中 で音が 荒っ ぼくな った		
* 適性点 段階表	適性点	42以下	43～49	50～56	57～64	65以上
	段階	最下	下	普通	上	最上

労働省編（第2）

検査名	peg board (手腕の器用さ)					
	さしこみ (M)			さしかえ (N)		
時間	15秒	15秒	15秒	30秒	30秒	30秒
粗点						
粗点計一般比	/79 = %			/88 = %		
観察事項 () 内に チ ェ ツ ク	<input type="checkbox"/> 左右の動きに著しい差があった <input type="checkbox"/> さしこみの位置を間違えた <input type="checkbox"/> さしこみがスムーズでなかった <input type="checkbox"/> 各回に著しい違いがみられた			<input type="checkbox"/> 手の動きのぎこちなさが目立った <input type="checkbox"/> さしかえの順序を間違えた <input type="checkbox"/> 各回に著しい違いがみられた		

本人情報	
所見	教示理解 () 指示従命 () 正確性 () 態度 () ○△×で記入

表2—5 基本評価による基準

能力面検査	A 基準		B 基準		C 基準
	IQ 65以上	IQ 64~40	B1	B2	
知識	日本職業指導協会編 適性点(4種目平均): 4.6点以上	日本職業指導協会編 適性点(4種目平均): 4.5~2.5点	日本職業指導協会編 適性点(4種目平均): 2.4点以下		
対人態度 (面接所見)	労働省編 ベゾボード 相点: 7.3点以上 M. N. 共	労働省編 ベゾボード 相点: 7.2~4.2点以上 M. N. 共	労働省編 ベゾボード 相点: 4.1点以下 M. N. 共		
持久性 (検査時態度)	友好的、協力的である 普通配の配慮で面接がスムーズに進む	右記の傾向はあるが、面接が進むにつれ改善される	下記のような態度が目立ち、面接の進行に大きな支障を生じる ①促されてもあいさつをしない ②質問に答ええない ③無語が多 い ④始終うつむいている ⑤的はずれな応答をする ⑥反抗的 になる ⑦無視する ⑧勝手に席を離れる		
生活の規律 (生着歴聴取)	検査時、最後まで変わらぬ態度で指示通り熱心に行う	右記の傾向はあるが、注意を すると改善される	下記のような行動が目立ち、検査に支障を来す ①いやいやながらしている ②たむたむ手を休めたり、ため息を ついている ③投げやりなやり方 ④検査を受けている ⑤指示を 聞かない		
問題行動 (生着歴聴取)	規律正しい生活習慣がついている	生活が不規則になっていること を自覚し、改めようとしている	数年にわたり不規則な生活(昼夜逆転した生活等)が続いており、 改善しようとしていない		
健康状態 (生着歴聴取)	問題行動はない 性格的な偏りも少なく、素直な明るい感 じを受ける	右記の傾向はあるが、習慣化 していない 自覚をし、改善しようとして いる	深酒・消費癖・放浪癖等が習慣化している、或は非行・不良交友・ 憂鬱が頻発にみられるが、そのことに対する反省・自覚の念が乏し く改善の努力をしていない		
将来の生活設計 (面接)	健康である	職業治療中であっても、日常生活に支障がないとの診断がさ れている 2週間に1回程度の通院をしている	医学的に職業は困難と診断されている 必要な健康管理や服薬を怠るために、健康状態が悪化することがた びたびある		
家族等の協力 (面接)	就労意欲がはっきりしており、現実的な希 望を持っている	就労したい気持ちはあるが、 そのためにすべきことが理解 できていない	将来の生活についてどうしたいのか考えていない 訓練室などで援助や指導を受けることについて関心がない		
備考	周囲の援助者と本人のニーズが一致してお り、日常生活の援助が得られる	情報提供や援助などによって周囲の指導体制が改善される見 込みがある	周囲の本人に対する期待が非現実的あるいは拒否的など、不適切な 傾向が目立ち、周囲の助言を聞き入れない、また、他に本人にとっ て適切な資源を求めることが困難な状況にある。		

①A—B—C基準のいずれの範疇に属するかは基本評価(インタビュー)終了後判断する
②B—C基準のいずれの範疇に属するか判断が困難な場合はB2とし、精密評価後判断する

精密評価表 (改訂版)

(I でできない II あまりできない III 大体できる IV できる)

領域	評価項目	評価場面	I	II	III	IV	
生活	食事のマナー	生活学習(調理)	音をたてる等、行儀が悪く、人に不快感を与えていることが多い	左記の行動や食べ方が極端に早過ぎたり遅すぎるなど、時々ある	左記のことがたまに見られるが、自分でも気を付けている	いつもきちんとしている	
	身だしなみ	日常生活	清潔、だらしない、いつも体や衣服が汚れていることが多い	人からいわれた時は改めるが自分からは少ない	時々だらしないことはあがあるが自分で気をつけている	いつもきちんとしている	
	家事	生活学習(調理) 当番	包丁やナイフを恐れ、使用できない。基本的なことまでできにくい	刃物の使い方、ガスの使用など、掃除などで指導が必要	簡単な調理、掃除、せんたくなど、基本的なことではできているが、時々失敗する	掃除、せんたく、調理など、簡単な家事をまかせられる	
	生活のリズム	日常生活	一週間に2回以上遅刻や欠席をする	一週間に一回程度の遅刻や欠席をする	たまたまには遅刻をするが、欠席はしない	遅刻や欠席をすることは少ない	
健康と安全	健康状態	"	病気がちで月のうち半分も通所できない	時々病気で休み、又は訓練中も不調を訴えることが多い	病気で休むことはほとんどないが、時々不調を訴えることがある	病気による欠席はほとんどなく、通常扱れを訴えることはない	
	健康管理	日常生活問題	極端な過食や偏食がある、必要な食事を飲まない、体調が悪い、体調を気にしすぎ、等、管理が必要	左記の傾向があり、健康管理について必要を要する	健康管理について日常は良いが、通院、付添い等の授助は必要	一人で病院に行き、服薬もきちんとできているので、緊急時以外には授助の必要はない	
	安全への理解	日常生活全般	日常生活全般	危険物や用心しないといけないこと、周囲の注意が必要	危険物を必要以上に怖がる、あるいは用心しないことが多い	危険なことには用心できるので、一通りの注意をすればよい	危険なことに対し用心でできる
				危険物や用心しなければいけないこと、周囲の注意が必要	危険物を必要以上に怖がる、あるいは用心しないことが多い	危険なことには用心できるので、一通りの注意をすればよい	危険なことに対し用心でできる

II 社会生活技能

領域	評価項目	評価場面	I	II	III	IV	備考
読	読み書き能力	テ(漢字テスト)ス生活学習	0~25点 小学校1年生程度 (ひらがな読み書き不 完全)	26~50点 小学校2年生程度	51~75点 小学校3年生程度	76~100点 小学校4年生程度	
	数の理解	テ作	20までの数対応が困 難、10ずつまとめるこ とができる	50までの数対応ができ る、10ずつまとめるこ とができる	100までの数対応ができ る、10、50ずつまと めて数えることができる	200以上の数対応がで きる、50、100ずつま とめて数えることができ る	
	計算能力	テス	0~25点 加減計算困難 100までの数の大小比 較可	26~50点 小学校1年生程度 加減計算可	51~75点 小学校2年生程度 加減計算可、乗除計算 困難	76~100点 小学校3年生程度 四則計算、文章問題可	
	計量	テス	重さの単位(kg、g) がわからない、はかり による軽重の比較が困 難	はかりによる軽重の比 較ができる	gの単位がわかり、 500gまでの計量ができ る	g、kgの単位がわか り、1kg以上の計量が できる	
理	計測	テス	長さの単位はわからな い、が、長短の比較がで きる、ものさし使用は 困難	cmの単位がわかり、20 cmまではかること ができる	cm、mmの単位がわか り、50cmまではかるこ とができる	cm、mm、mの単位がわ かり、1m以上をはか ることができる	
	金銭理解	テス生活学習	貨幣の種類を完全には 理解していない、100 円までのお金の組みあ わせ困難	500円までのお金の組み あわせはできるが、つ り銭の計算は困難	1,000円までのお金の 組みあわせはでき、つ り銭の計算が可能	10,000円までのお金の 組みあわせはでき、つ り銭の計算が可能	
	金銭管理	日常生活全般学習	一人で買物ができな らなければ、お金の種 類が分かっていない、 お金の持ちまわりの お金の一部を使 って、お金の持ちま わりのための、 お金の管理が必要	週1~1回範囲の 自分のメモ で、つり銭の 計算はでき ない	週1~1回範囲の 自分のメモ で、つり銭の 計算はでき ない	月1回範囲の 自分のメモ で、つり銭の 計算はでき ない	
解	時間の概念	日常生活全般	現在の時刻がわから ない	現在の時刻がわか らない、時間の経過 がわからない	時刻はわかり、時間 の経過や計算も30分 ごとの単位ででき る	時間の経過が理解でき る、時間の計算もでき る	
	生活の知識と応用	生活学習	個別指導をしても理解 せず、失敗することが 多い	個別指導がないと失敗 することが多い	課題に即した言動をと らうとしない、 課題に即した言動をと らうとしない、 課題に即した言動をと らうとしない	課題に即した適切な言 動がとれる	

領域	評価項目	評価場面	I	II	III	IV
作業能力	1 指示理解	作業	くりかえし手順を示しても理解が困難	くりかえし手順を示すことが必要	2～3回手順を示すことにより理解できる	1回手順を示すことで理解できる
	2 能率	測定時 (ボールペン 端子板)	29%以下	30～49%	50～69%	70%以上
	3 正確性	作業	不正確	不正確になることが多い	大体正確	正確
	4 修正能力	“	修正できない	具体的例示によって修正できる	声かけにより修正できる	自分で修正できる
	5 判別能力	“	部品や不良品の判別ができない	判別できない物が多い	大体判別できる	判別できる
	6 巧み性	“	道具の使用は困難	道具の使用は不得意	決められた単品の道具の使用はできる	道具の使用はできる
	7 習熟度	“	習熟しない	習熟に時間がかかる	どの種目もだいたい習熟	どの種目も習熟
	8 理解の持続性	“	持続しない	忘れることが多い	時に忘れることもある	理解したことは忘れない

領域	評価項目	評価場面	I	II	III	IV
体	敏捷性	反復横とび	～ 19 cm	20～29 cm	30～39 cm	40 cm
			～ 18	19～27	28～36	37
	瞬発力	垂直とび	～ 22 cm	23～32 cm	33～42 cm	43 cm
			～ 20	21～29	30～38	39
力	背筋力	背筋力	～ 31 kg	32～56 kg	57～81 kg	82 kg
			～ 24	25～44	45～64	65
	握力	握力	～ 10 kg	11～17 kg	18～24 kg	25 kg
			～ 9	10～15	16～21	22
柔軟性	上体そらし	～ 32 cm	33～40 cm	41～48 cm	49 cm	
		～ 34	35～43	44～52	53	
柔軟性	体前屈	～ 11 cm	～ 10～ 1 cm	0～ 9 cm	10 cm	
		～ 13	～ 12～ 1	0～ 11	12	

上段： 男子 下段： 女子 評価段階IVは12歳の水準を示す

III 社会生活における行動特徴

領域	評価項目	評価場面	I	II	III	IV
目	情緒の安定	日常生活全般	泣く、大声を出す、反抗的になる、罵れる、沈み込む、ふくれ等の尋常的行動が頻りにあり、周囲の助言を容易に受け入れない	左記の行動が時々見られるが、周囲の助言によりその時だけは安定する	時々左記の行動がみられるが、動観していきながら安定する	だいたいいつも安定している
	場面に合った適切な行動	"	周囲の状況に無関心で難席独り言、居眠り、奇声等の行動が頻りに見られ注意されても改めようとしない	左記の行動がたびたび見られるが、注意されればその場だけは改める	時に左記のような行動が見られるが、注意されると改めることができ、自分でも気をつけようとしている	いわれなくとも休み時間と訓練時間等のけじめをつけたり、周りの状況をわかまえることができる
己	責任感	"	当番や作業など、自分のやるべきことができず、注意しても改めようとしない	当番や作業をいい加減にしたり、行動にムラがある	当番、作業等、決められたことは大体できる	当番、作業等決められたことはきちんと安心してまかせられる
	自発性	"	どの場面でも自分から進んで行動できず、いつも誘いかけが必要	場面によっては、自分から進んで行動することがあるが、誘いかけを必要とすることが多い	どの場面でも進んで行動するが、時々誘いかけの必要なことがある	どの場面でも自分から進んで行動し必要なことは尋ねることができる
社	生活の目標	生活学習	助言や指導をしても、生活の目標がわからない	助言や指導をしても、生活の目標があまりない	生活の目標は大体わかり、助言や指導により必要な努力をしようとする	生活の目標を自覚し、それにむかって努力する
	就業意欲	生活学習	就業の意味を理解していない	就業に対する理解があまりないで人に言われた時だけ努力する	働きたい希望はあまり助言や指導により必要な努力をしようとする	働くためにやるべきことを理解し努力している

領域	評価項目	評価場面	I	II	III	IV
作	陰日向なく作業する	作業	職員がいないと全く作業をしない	職員がいないと離席、おしやべり、手休め等のことが頻発する	職員が見られない時、左記の行動が見られる	職員がいないにかかわらず、通常の作業は一人でできる
	意欲的作業する	"	作業中によそ見、居眠り、意欲が低下することを受けける	自分から作業する時と、暇があきながらやむを得ないことがある	それほどは継続的ではないが、決まらぬ作業をこなすことに意欲的である	いつでも熱心に作業をしている
業	作業にむらはない	"	作業の好き嫌いや意欲の差が大きい	左記の傾向があり、作業成績や態度に差が生じる	作業によって、ある時は意欲的であるが、ある時は意欲的でない	作業の進み方や気分がむらなく、意欲も熱心である
	持続性	"	一つの作業において1時間以上で飽きやすい、見守り等の行動が見られる	1時間以上になると左記の行動が見られる	1日の作業時間の中で時々左記の行動が見られる	左記の行動はほとんど見られない
態度	集中力	"	だれかが入ってきた時、職員が他の人に話しかけている	左記の行動がしばしば見られる	時に左記の行動が見られる	周囲の状況に影響されずに作業している
	注意・指示をきく態度	"	無視したり、反感拒否することが多い	一応聞き入れるがその場限りが多い	時にとことり守れない指示もあるが、通うことができる	言われたことはきちんと言っている
度	質問・報告	"	自分から質問や報告をしない	促されるまで質問や報告をしない	時に忘れたり必要以上に質問や報告をすることがある	必要なきとき自発的にできる
	準備・後片付け	"	常に援助が必要	言われないと準備、後片付けもしない	時に不十分なことがある	自分できちんと言っている

領域	評価項目	評価場面	I	II	III	必要な時、自分から質問・報告ができ、意志を伝えること
社 会 参 加 へ の 志 向 性	コミュニケーション	日常生活全般	意志疎通ができにくい	質問されれば何とかか答えられる	意志を伝えたり、質問、報告などが不十分である必要がある	必要な時、自分から質問・報告ができ、意志を伝えること
	日常の挨拶	日常生活全般	自分からは挨拶をしないし、相手がしなくても怠いことが多い	相手が挨拶をすれば感じるが、自分からすることは少ない	時に挨拶を忘れる	必要な時に適切な挨拶ができる
	電話の利用	日常生活全般 生活学習	電話をかけたり受けたりすることができない	慣れたところなら電話を受けても対応できない	日常の電話は自分でかけたり受けたりできる	日常の電話は正しく伝えられる
	上司・先輩への対応	日常生活全般 作業	目上の人がどうかの区別がつかない、あるいは無視、拒否、反抗などの態度がみられる	目上の人に対し、同僚と同じような接し方をしている	目上の人に対してマナーを覚えようとするところもある	目上の人に対し適当な敬語を交えたりマナーを覚えようとする
	協調行動	日常生活全般	集団行動場面ではいつも個別指導をしないこと、拒否的あるいは攻撃的等の行動が生じる	いつも一人でいる、あるいは上のような行動がみられる	おせっかきが多い、あるいは進んで集団に入る必要はない、あるいは必要などがある	特に配慮をしなくても協調行動がとれる
	非社会的行動	“	自殺企図、過食、自傷等の行動がみられる	自分の殻に閉じこもる、周囲に無関心、集団行動を避ける等の行動がみられる	左記の傾向はあるが、周囲の働きかけにより、集団行動がとれる	周囲への関心があり、進んで集団行動をとる
	反社会的行動	“	家出、盗み、暴力、不良交友など非行傾向がみられる	夜遊び、不良交友、浪費などで生活が乱れやすい	左記の点で、時々注意を要する	非行についての心配はない
	日常の規律	“	規則についても同じことを繰り返す	規則を守らなければいけないことを知っているが、実行できず注意されることがある	規則を守らなければいけないことを知っているが、時々守れないことがある	規則は自分から気を付け守れる
	移動能力	通所 生活学習	一人で交通機関の利用ができなかったり、必要な	1週間以内の送迎で通所ができるようになる	2～3回の送迎で通所できる	交通機関の利用方法を口頭で教えれば一人で通所できる

個 別 福 祉 プ ロ グ ラ ム

1. 本人の希望:

2. 評価結果:

(1) 日常生活技能

領域	評価項目	レベル	評価項目	レベル	総合所見
生活習慣	1 食事のマナー		3 家事		
	2 身だしなみ		4 生活のリズム		
健康と安全	1 健康状態		3 安全への理解		
	2 健康管理				

(2) 社会生活技能

領域	評価項目	レベル	評価項目	レベル	総合所見
一般理解	1 読み書き能力		6 金銭理解		
	2 数の理解		7 金銭管理		
	3 計算能力		8 時間の概念		
	4 計量		9 生活の知識と応用		
	5 計測				
作業能力	1 指示理解		5 判別能力		
	2 能率		6 巧緻性		
	3 正確性		7 習熟度		
	4 修正能力		8 理解の持続性		

領域	評価項目	レベル	評価項目	レベル	総合所見
作業態度	1 陰ひなたなく作業する 2 意欲的に作業する 3 作業にむらはない 4 持続性		5 集中力 6 注意・指示をきく態度 7 質問・報告 8 準備・後片付け		
体力	1 敏捷性 2 瞬発力		3 筋力 4 柔軟性		

(3) 社会生活における行動特徴

領域	評価項目	レベル	評価項目	レベル	総合所見
自己志向性	1 情緒の安定 2 場面に合った適切な行動 3 責任感		4 自発性 5 生活の目標 6 就労意欲		
社会参加への志向性	1 コミュニケーション 2 日常のあいさつ 3 電話の利用 4 上司・先輩への対応 5 協調行動		6 非社会的行動 7 反社会的行動 8 日常の規律 9 移動能力		

3. 本人の生活目標

4. 本人の生活目標達成のための援助者の役割

5. 特記事項

6. 次回作成予定日 年 月

このプログラムについてしょうち承知しました

 年 月 日 本人氏名 _____

プログラム作成参加者氏名

4) 精神障害者社会生活評価尺度
記入マニュアル
評価項目リスト
Ver. 2

資料出所

障害者労働医療研究会 精神障害部会作成

（参考資料
日本社会事業大学大学院、岩崎晋也
「精神障害者社会生活評価尺度の開発—
その信頼性および妥当性の検討」

1. 精神障害者社会生活評価尺度の目的

この尺度の目的は、精神分裂病者の障害を、客観的に評価することです。

社会生活上の困難は、本人の障害と環境の相互作用で発生するものであり、この尺度のすべての項目において問題なしとならなければ、社会生活が十分に送れないというわけではありません。精神分裂病者のリハビリテーションを行なう上で、社会生活上の本人の障害状況を、客観的に評価することの必要性から、この尺度を作成しました。

2. 本評価尺度の構成

本評価尺度の構成は5つに分れています。

- ① 「D (Daily living) / 日常生活」
- ② 「I (Interpersonal relations) / 対人関係」
- ③ 「W (Work) / 労働または課題の遂行」
- ④ 「E (Endurance & Stability) / 持続性・安定性」
- ⑤ 「R (self-Recognition) / 自己認識」

1、2、3は、精神分裂病者が社会生活を送る上での重要な技能領域を評価しています。

この3つの技能評価は、あくまで評価時点の断面の評価を行うもので、精神分裂病者の特徴の一つである経過の不安定性が評価からまれるおそれがあるので、4「E (Endurance & Stability) / 持続性・安定性」を設定しました。

さらに、疾病や障害による本人の意欲や認識の変化も、上記の技能領域では評価できませんが、実際に技能を使用する上で密な関係を持つので、5「R (self-Recognition) / 自己認識」を設定しました。

3. 評価者および評価対象者

<評価者>

精神分裂病者のリハビリテーションに携わる専門的従事者を対象としています。

しかし、評価項目が、評価対象者の社会生活全般にわたっているため、実際の生活場面に観察できる立場にあるか、観察している人から十分な情報を得る必要があります。

<評価対象者>

精神分裂病者を対象としています。

また、評価対象期間との関係で、評価者との接触期間が最低1カ月以上経過しているケースを対象としています。

4. 評価手順および注意事項

① 評価票の用意・情報の収集

記入票およびこの記入マニュアル・評価項目リストを準備し、

一通り目を通してください。

基本的には、過去1ヵ月間の行動を直接観察することによって評価を行なって下さい(「E / 持続性・安定性」のみ1年間)。直接観察により情報の収集が困難な項目については、「D / 日常生活」「R / 自己認識」においては、評価対象者との面接、または評価対象者の生活をよく知るものからの聴取により評価を行なってください。「I / 対人関係」「W / 労働または課題の遂行」「E / 持続性・安定性」においては、評価対象者の生活をよく知るものからの聴取により評価を行なってください(「I」「W」「E」については、評価対象者との面接で得られた情報のみで評価をしないで下さい)。

なお、あくまで行動評価が主体の評価ですので、確たる情報がなく推測で評価するしかない場合は、不明(9)と記入して下さい。

② フェイスシートⅠの記入

フェイスシートⅠは、評価対象者の生活状況について基本的なことを尋ねています。不明な項目のある場合は9と記入して下さい(8.相談者が不明の場合は99と記入して下さい)。

③ 評価の実施

評価の期間は特に指示のない限り、過去1ヵ月間とします。各項目のアンカーポイントは基本的に以下の様に構成されています。

- (0) 問題なし。
- (1) 若干問題があるが、助言や援助を受けるほどではない。
- (2) 時々問題がでる。助言(言葉による促しや情報の提供)を必要とする。
- (3) たびたび問題がでる。強い助言(説得・指示)や援助(一緒に行う等)を必要とする
- (4) たいへん問題がある。助言や援助を受け付けず、改善が困難である。

(2)と(3)の評価で迷う時は、問題の頻度(回数)を重視して評価して下さい。

④ フェイスシートⅡの記入

フェイスシートⅡは、評価対象者の病歴・生活歴・問題行動などを尋ねています。不明の場合は9または99と記入して下さい。ただし、期間や年数を尋ねている項目(11.12.13.)では概算の期間がわかっている場合は、その期間をご記入下さい。

※設問14.の生活類型についての説明

与えられた生活の枠に対する精神分裂病者の反応の仕方に基づく分類です。

能動型は「社会生活の経過の上で、現状に安住せず自分から変化と拡大を作りだそうとする」タイプで、「自ら生活の枠を広げすぎて、抱いきれなくなって」生活が破綻する傾向があります。

受動型は「社会生活の経過の上で、現状に安住し、自分から変化を作りだそうとはしない」タイプで、「生活の枠が変らない限り安定しているが、周囲から生活の枠の変更が要求されると、新しい生活の枠に適応できなくなって」生活が破綻する傾向があります。

生活の送り方が積極的(活動的)、消極的ということとは関係ありません。

評価項目リスト

・各項目のアンカーポイントは基本的に以下の様に構成されています。

- (0) 問題なし。
- (1) 若干問題があるが、助言や援助を受けるほどではない。
- (2) 時々問題がでる。助言（言葉による促しや、情報の提供）を必要とする。
- (3) たびたび問題がでる。強い助言（説得・指示）や援助（一緒に行く等）を必要とする。
- (4) たいへん問題がある。助言や援助を受け付けず、改善が困難である。

(2)と(3)の評価で迷う時は、問題の頻度を重視して評価して下さい。

・評価をする上で情報が不確かな項目は、不明(9)として下さい。

1. D(Daily Living)／日常生活

・過去1ヵ月間の典型的な行動について、評価して下さい。

・日常生活の各項目は、対象者の生活を実際に知らないと評価できない項目です。評価者自身が確認できない場合は、対象者本人と面接するか、対象者の生活をよく知るもの（家族・看護など）から聴取して確認してください。推測でつけるしかない場合は、不明(9)として下さい。

①身辺処理

D-1.生活リズムの確立

- (0) 必要な時間に自分で起きることができ、自分なりの生活リズムが確立されている。
- (1) 時に寝過ぎることがあるが、だいたい自分なりの生活リズムが確立されている。
- (2) 時に、助言がなければ、寝過ぎ、生活のリズムを乱すことがある。
- (3) 起床が遅く、生活のリズムが不規則に傾きがち。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 生活が不規則で、助言や援助をしても全く改めようとしないうか、できない。

D-2.身だしなみへの配慮 — 整容

- (0) 洗面、整髪、髭そり、入浴等を自主的に問題なく行なえる。
- (1) 他人に不潔感や、奇異な感じを与えない程度に自主的に行なえる。
- (2) 時に、助言がなければ、不潔感あるいは奇異な感じをあたえる。
- (3) 自主的にやろうとせず、不潔感や奇異な感じを与えることが多い。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしないうか、できない。

D-3.身だしなみへの配慮 — 服装

- (0) おかしくない程度に清潔で季節感のあるものを、自分で選んで着ることが問題なくできる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。不潔感や奇異な感じはない。
- (2) 時に、助言がなければ、不潔感あるいは奇異な感じをあたえる。
- (3) だらしく、不潔感や奇異な感じを与えることが多い。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしないうか、できない。

D-4.居室(自分の部屋)の掃除やかたづけ

(直接、確認できない場合は、本人との面接により確認して下さい。また家族がかわりに行き、判断がつかない場合は、不明(9)として下さい。)

- (0) 必要に応じて(週に1回くらいは)、自主的に掃除やかたづけができる。
- (1) 回数は少ないがだいたい自主的におこなえる。
- (2) 時に、助言がなければ、ごみがたまり、部屋が乱雑になる。
- (3) 自主的にやろうとせず、いつも(2)の様な状態である。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くやろうとしないか、できない。

D-5.バランスの良い食生活

(直接、確認できない場合は、本人との面接により確認して下さい)

- (0) 偏りすぎない充分な量の食事をとることができる(外食、自炊、家族・施設からの提供を問わない)。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、援助がなければ、同じものばかり食べて食事が偏ったり、過食になったり、時に不規則になったりする。
- (3) いつも同じものばかりを食べたり、食事内容が極端に貧しかったり、いつも過食になったり、不規則になったりする。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしないうか、できない。

②社会資源の利用

D-6.交通機関

(直接、確認できない場合は、本人との面接により確認して下さい)

- (0) 未知の路線であっても、バス・電車等の交通機関を、自分で、もしくは他人に聞いて問題なく利用できる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自分でできる。
- (2) 既知の路線なら自分で利用できるが、未知の路線では助言を必要とする。
- (3) ほとんど一人で交通機関を利用できない。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くやろうとしないか、一人ではまったくできない。

D-7.金融機関

(直接、確認できない場合は、本人との面接により確認して下さい)

- (0) 必要に応じて、郵便局や銀行を自分で問題なく利用できる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自分でできる。

- (2) だいたいできるが、時に助言を必要とする。助言があれば、自分でできる。
- (3) ほとんど一人で金融機関を利用できない。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くやろうとしないか、できない。

D-8.買物

(直接、確認できない場合は、本人との面接により確認して下さい)

- (0) 必要なものを適当な店を選んで、自分で探して買うことができる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自分でできる。
- (2) だいたいできるが、時に、助言がないと、必要なものを購入せずにすましてしまうことがある。
- (3) 自分ではやろうとしないか、うまくできない。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くやろうとしないか、できない。

③自己管理

D-9.大切な物の管理

(大切な物には財布・印鑑などの他、本人のみが大切にしている物も含まれます。)

- (0) めったに大切な物をなくしたり、忘れてしまったりしない。
- (1) 時折、大切な物をなくしたり忘れることがあるが、生活上で問題となるほどではない。
- (2) 時に、大切な物の置き場所を忘れて、勘違いすることがあり、助言が必要なこともある。
- (3) しばしば、大切な物を置き忘れて、なくすことが多い。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く気をつけようとしないうとしないか、できない。

D-10.金銭管理

- (0) 金銭の計算と計画的な使用(1ヵ月くらいのやりくり)が自分で問題なくできる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自分でできる。
- (2) だいたいできる(1週間のやりくり)が、時に使いすぎたり、使わなすぎたりする。
- (3) (2)で述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしてもまったく改めようとしないうとしないか、できない。

D-11.服薬管理

- (0) 適切に自分で管理している。
- (1) 時に飲み忘れることもあるが、助言が必要なほどではない。
- (2) 時に飲み忘れるので助言を必要とすることがある。
- (3) 飲み忘れや、飲みかたを間違えたり、拒薬することがたびたびある。強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くやろうとしないか、できない。

D-12.自由時間の過ごし方

- (0) 人に勧められなくても、自由時間は友達とあったり、趣味をするなど、積極的に生活を楽しもうとしている(この場合の趣味は広く考え、積極的にあれば自分一人の時間を楽しむことなども含む。ただし没頭しすぎる場合は(2)(3)に該当する)。
- (1) 自由時間はテレビやラジオなどを見聞きするなど、受身的で限定されたものしかしようとしないうとしない。
- (2) 時に、助言がなければ、楽しみに没頭し過ぎる。あるいは興味が持続しないことがある。

- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても、外界に興味を引くものがほとんどなく、全くやろうとしないか、できない。

2. I (Interpersonal relations) / 対人関係

- ・過去1ヵ月間の典型的な行動について、評価して下さい。
- ・対人関係の①会話(I-1~I-7)を評価をする際には、近所の人、仕事場、病棟などでの会話を対象とし、家族や援助者など特有の相手に対する反応は、ここでは評価しません。評価者自身が確認できない場合は、対象者の生活をよく知るもの(家族・看護など)から聴取し、確認してください。

①会話

I-1.発語の明瞭さ

- (0) 会話をする時の発語が明瞭で状況に見合っており、声が十分に大きく話が聞き取りやすい。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる
- (2) 時に、助言がなければ、発語が不明瞭であったり、声が小さすぎたり、大きすぎたりして適切でない。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 発語がまったく不明瞭で、助言や援助をしても改めようとしないうとしないか、できない。

I-2.自発性

- (0) 必要に応じて、誰に対しても自分から話せる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、挨拶や事務的なことでも、自分から話せないことがある。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くやろうとしないか、できない。

I-3.状況判断

- (0) 時間、場所、状況に相応しくない話題は、自分から避けることができる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、相応しくない話題や特定の話題を一方向的に繰り返すことで、他人に不快感や奇異な感じを与える。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしないうとしないか、できない。

I-4.理解力

- (0) 相手が何を自分に伝えようとしているのか、ほぼ正確に理解できる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、理解できず何度も聞き直したり、間違ったふうに早合点したり、解らなくてもそのままに済ませようとする。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く理解しようとしないうとしないか、できない。

I-5.主張

- (0) 自分が伝えたい要件・意思は、自分で相手に伝えることができる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、伝えたいことを伝えられないことがある。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くやろうとしないか、できない。

I-6.断る

- (0) 誘われても自分が都合の悪い時は、適切に自分から断れる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、誘われると断れなかったり、断りかたが適切でないことがある。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く断ろうとしないか、できない。

I-7.応答

- (0) 話しかけられれば適切に対応でき、会話を続けられる。
- (1) 話しはとぎれがちだが、(0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、話しかけられても、返事をしないことや、曖昧な合槌ですませることがある。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くしようとしませんか、できない。

②集団活動

I-8.協調性

- (0) 近所の人、仕事場、病棟で、他者と大きなトラブルをおこさずに行動をすることができる。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、他人の行動に合せられなかったり、周囲への配慮を欠いた行動をとる。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしませんか、できない。

I-9.マナー

- (0) 食堂や交通機関など公共の場所で、常識的なマナーを配慮でき、他人に奇異な感じや不快な感じを与えることはない。
- (1) (0)で述べたことがだいたい自主的にできる。
- (2) 時に、助言がなければ、常識的なマナーを配慮できず、他人に奇異な感じや不快な感じを与える。
- (3) (0)に述べたことができないことがよくあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしませんか、できない。

③人づきあい

I-10.自主的なつきあい

- (0) 必要に応じて、他人とのつきあいを自主的にできる。
- (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
- (2) 時に、助言がなければ、他人との交わりを求められる場面を避けようとしたり、過剰にあわせすぎようとする。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしませんか、できない。

I-11.援助者とのつきあい

- (0) 困った時は、適切な援助者に、必要な範囲で援助を求めることができる。
- (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
- (2) 時に、助言がなければ、援助が必要な時に自分からは求めようとしなかったり、過度に援助者に頼りきってしまう。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしませんか、できない。

I-12.友人とのつきあい

- (0) 同性、同世代の友人を自分からつくり、継続してつきあうことができる。
- (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
- (2) 時に、助言がなければ、同性、同世代の友人を自分からつくり、継続してつきあうことができない。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全くつきあおうとしませんか、できない。

I-13.異性とのつきあい

- (まったく交際がない場合は不明(9)と記入して下さい)
- (0) 異性に対して適度な情緒的な関係を持つことができる。
- (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
- (2) 時に、助言がなければ、異性に対して恐れたり、避けたり、攻撃的になったり、または強い執着を示す行動をとる。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしませんか、できない。

3. W (Work) / 労働または課題の遂行

過去1ヵ月間の典型的な行動について、評価して下さい。

・評価対象者が主婦・学生・デイケア利用者の場合は、その場面での課題の遂行で評価して下さい。入院中の人で、特に課題がない場合は、不明(9)として下さい。
・評価者自身が確認できない場合は、対象者の労働、課題の遂行場面をよく知るものから聴取し、確認してください。

W-1.役割の自覚

- (0) 欠勤・遅刻・早退の連絡をしなかったり、勝手に持ち場を離れることがない。
- (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
- (2) 時に、助言がなければ、欠勤・遅刻・早退の連絡をしなかったり、勝手に持ち場を離れることがある。
- (3) (2)に述べたことがたびたびできないことがあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしませんか、できない。

W-2.課題への挑戦

- (0) 新しい課題や過去に失敗した課題に対して、必要に応じて、自主的に挑戦する。
- (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
- (2) 時に、助言がなければ、新しい課題や過去に失敗した課題に対して、挑戦することを過度に避けることがある。
- (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
- (4) 助言や援助をしても全く改めようとしませんか、できない。

W-3. 課題達成の見通し

- (0) 必要とされる課題に対して、充分、見通しをたてて実行する。
 (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、助言がなければ、必要とされる課題に対して、見通しをたてずに実行に移すことがある。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
 (4) 助言や援助をしても全く改めようとならないか、できない、

W-4. 手順の理解

- (0) さほど複雑でない手順であれば、容易にのみこみ実行できる。
 (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、助言がなければ、手順をなかなか覚えられず、何度も確認したり、しばらく時間がたつと忘れてしまう。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
 (4) 助言や援助をしても全く改めようとならないか、できない、

W-5. 手順の変更

- (0) 慣れた手順が変更された時に、対応できる。
 (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、助言がなければ、慣れた手順の変更がしづらかったり、または変更の確認を必要とする場合に、確認せず自分で勝手に変更する。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
 (4) 助言や援助をしても全く改めようとならないか、できない、

W-6. 課題遂行の自主性

- (0) 自分のやるべきことが終わったら、必要に応じて他の人の所を手伝ったり、指示を仰げる。
 (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、助言がなければ、自分のやるべきことが終わっても、言われるまで何もしていないことがある。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
 (4) 助言や援助をしても全く改めようとならないか、できない、

W-7. 持続性・安定性

- (0) 単純な作業であれば、労働または課題遂行の間は、安定したペースを持続できる。
 (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、助言がなければ、ペースが変化したり、集中できなかったりする。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
 (4) 助言や援助をしても全く改めようとならないか、できない、

W-8. ペースの変更

- (0) 単純な手順であれば、相手や全体のペースに合わせて、自分のペースを変えられる。
 (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、助言がなければ、相手や全体のペースに合わせてペースの変更ができない。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
 (4) 助言や援助をしても全く改めようとならないか、できない、

W-9. あいまいさに対する対処

- (0) 基準があいまいでも妥当な判断をして、作業の遂行に支障

をきたさない、

- (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、助言がなければ、基準があいまいで判断が求められるような課題では、作業の遂行にかなりの支障をきたす。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、強い助言や援助を必要とする。
 (4) 助言や援助をしても全く改めようとならないか、できない、

W-10. ストレス耐性

- (0) せかされたり、失敗を指摘されても、ひどく緊張したり、混乱することがない。
 (1) (0)で述べたことがだいたいできる。
 (2) 時に、適切な介入がなければ、せかされたり、失敗を指摘されると、ひどく緊張したり、混乱することがある。
 (3) (2)に述べたことがたびたびあり、適切な介入を必要とする。
 (4) 適切な介入があっても、せかされたり、失敗を指摘される状況には、いつも全く耐えられない、

4. E (Endurance & Stability) / 持続性・安定性

E-1. 現在の社会適応度

下記の〈表〉「社会適応度尺度」(以下〈表〉と略す)において、現在の状況にあてはまるのは何番ですか。(状況が重複している場合は、若番号を優先して下さい、)

〈表〉「社会適応度尺度」

(0) 自立	・ 病前と同様の生活 ・ 医師や周囲の支持を必要としない(服薬していても可)
(1) 一応の自立	・ 継続的に職業生活を営み経済的にも自立しているが、医師や周囲の支持も必要とする ・ 家庭生活(家事・育児)は普通にできているが、医師や周囲の支持も必要とする ・ 学生生活は普通に送れているが、医師や周囲の支持も必要とする
(2) 周囲の相当の支えがあれば一般の職場で働ける	・ 何とか一般の職場で働いているが、医師や周囲の相当の支持がなければ維持できない ・ 何とか普通の家庭生活を送れているが、医師や周囲の相当の支持がなければ維持できない ・ 何とか普通の学生生活を送れているが、医師や周囲の相当の支持がなければ維持できない
(3) 過激な・移行的復帰あるいは施設適応	・ 共同作業所などの授産施設に通所している ・ デイケアなどに通っている(週一回でも可)
(4) 在宅	・ 在宅で、生産的な役割(家事を含む)はほとんどしない ・ 在宅で、反社会的な行動が目立つ
(5) 入院	

E-2. 持続性・安定性の傾向

(表)のランクで(0)(1)を、「A. 適応」
(表)のランクで(2)(3)を、「B. 保護的な環境では適応」
(表)のランクで(4)(5)を、「C. 不適応」

以上のように定義した場合、過去1年間の状況はどうか。
(まず、この一年間の主たる状況を評価し、次に、他のランクに移る時がなかったか評価して下さい、迷う場合は、最近の状況を重視して下さい。)

- (0) ここ1年間は、「A」であった。
- (1) ここ1年間は、基調は「A」であるが、短期間「B」「C」に至る時もあった。
- (2) ここ1年間は、「A」と「B」の間を揺れ動いていた。
- (3) ここ1年間は、おおむね「B」にあった。
- (4) ここ1年間は、「B」と「C」の間を揺れ動いていた。
- (5) ここ1年間は、基調は「C」にあるが、短期間「A」「B」に至る時もあった。
- (6) ここ1年間は、「C」にあった。

5. R(self-Recognition) / 自己認識

・過去1カ月間の言動や、面接での様子をもとに判断して下さい(なるべく面接して確認することが望ましい)。
評価者自身が確認できない場合は、対象者の認識をよく知るものから聴取し、確認してください。

R-1. 障害の理解

- (0) 自らの障害を認め、それに見合った生活を送っている。
- (1) (0)に述べたことが、だいたいできている。
- (2) 指摘されれば、障害を認め、しかもそれに見合った生活を送っている。
- (3) 指摘されれば、障害を認める部分もあるが、それに基づく現状に見合った生活を送っていない。
- (4) 指摘されても、障害を全く否定するか、関心を示さない(障害を全く否定していれば、生活の送りかたの適否は問わない)。

R-2. 過大な自己評価・過小な自己評価

- (0) 自己の生活能力(この評価表の「D」「I」「W」で評価した能力)を過大(小)に評価することはない。
- (1) (0)に述べたことが、だいたいできている。
- (2) 自己の生活能力を過大(小)に評価する傾向が見られる。しかし指摘されれば、その傾向を認めることができる。
- (3) 自己の生活能力を過大(小)に評価する傾向が見られる。指摘されれば一旦は同意するが、結局その認識は変わらない。
- (4) 明らかに過大(小)な自己評価の傾向が見られる。指摘されても全く認めようとしない。

R-3. 現実離れ

- (0) 妄想などの世界を持っていると思えない。
- (1) 妄想などの世界を持っているが、現実の世界と区別でき、そのことで現実生活が困難になることはない。
- (2) 妄想などの世界を持っており、時々現実の世界と区別できず、助言がなければ、そのことで現実生活が困難になることがある。
- (3) 妄想などの世界を持っており、しばしば現実の世界と区別できず、適切な介入を必要とする。
- (4) 妄想などの世界を持っており、しばしば現実の世界と区別できず、適切な介入があっても、うけいれない。

精神障害者社会生活評価尺度 (Ver. 2)
記入票

障害者労働医療研究会 精神障害部会作成

フェイスシート I

評価年月日	年 月 日
評価対象者氏名	
評価者氏名	
所属施設名	

<評価対象者の生活状況>

1. 性別	① 男性 ② 女性	1	<input type="text"/>								
2. 満年齢		2	<input type="text"/>								
3. 配偶関係	① 未婚 ② 既婚 ③ 離婚 ④ 死別	3	<input type="text"/>								
4. 生活形態	① 単身生活 ② 共同同居 ③ 療養・救護施設等 ④ 入院 ⑤ 家族同居 ⑥ その他 (具体的に) _____	4	<input type="text"/>								
5. (4. で ⑤ 家族同居 を選んだ人のみ記入して下さい) 同居家族の構成	① 親と同居(独身兄弟がいても可) ② 親と結婚した兄弟と同居 ③ 結婚した兄弟と同居(親は同居せず) ④ 配偶者と同居(他の親族がいても可) ⑤ 子供と同居 ⑥ その他 (具体的に) _____	5	<input type="text"/>								
6. 評価対象者の生活費を賄うための収入源 (最も金額の多いもの一つを選択)	① 本人の就労による収入 ② 本人の年金による収入 ③ 本人名義の資産からの収入 ④ 家族からの援助(現物給付も含む) ⑤ 生活保護 ⑥ その他 (具体的に) _____	6	<input type="text"/>								
7. 食生活の状況 (評価に迷う場合は夕食の状況を基準に評価)	① 主に自分で調理する ② 主に外食・弁当類ですませる ③ 主に家族に作ってもらう ④ 主に施設から提供される ⑤ その他 (具体的に) _____	7	<input type="text"/>								
8. 評価対象者にとって、親身になって相談にのってもらえる人はいますか (複数解答可。ただし不明の場合は ⑨⑨ と記入する)	① 家族 ② 同病の友人 ③ ②以外の友人 ④ 医療機関職員 ⑤ 作業所・授産施設職員 ⑥ その他の機関(保健所・福祉事務所など)の職員 ⑦ 職場の上司・同僚 ⑧ その他 (具体的に) _____ ⑨ 誰もいない	8	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td><input type="text"/></td><td><input type="text"/></td></tr> <tr><td><input type="text"/></td><td><input type="text"/></td></tr> <tr><td><input type="text"/></td><td><input type="text"/></td></tr> <tr><td><input type="text"/></td><td><input type="text"/></td></tr> </table>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>										
<input type="text"/>	<input type="text"/>										
<input type="text"/>	<input type="text"/>										
<input type="text"/>	<input type="text"/>										

評価記録用紙

(プロフィール)

□の中に数字を記入
してください

1. D (Daily living) / 日常生活

(0) (1) (2) (3) (4)

① 身近処理

- D-1. 生活リズムの確立
- D-2. 身だしなみへの配慮 — 整容
- D-3. 身だしなみへの配慮 — 服装
- D-4. 居室の掃除やかたづけ
- D-5. バランスの良い食生活

D-1	_____
D-2	_____
D-3	_____
D-4	_____
D-5	_____

② 社会資源の利用

- D-6. 交通機関
- D-7. 金融機関
- D-8. 買物

D-6	_____
D-7	_____
D-8	_____

③ 自己管理

- D-9. 大切な物の管理
- D-10. 金銭管理
- D-11. 服薬管理
- D-12. 自由時間の過ごし方

D-9	_____
D-10	_____
D-11	_____
D-12	_____

2. I (Interpersonal relations) / 対人関係

① 会話

(0) (1) (2) (3) (4)

- I-1. 発語の明瞭さ
- I-2. 自発性
- I-3. 状況判断
- I-4. 理解力
- I-5. 主張
- I-6. 断る
- I-7. 応答

I-1	_____
I-2	_____
I-3	_____
I-4	_____
I-5	_____
I-6	_____
I-7	_____

② 集団活動

- I-8. 協調性
- I-9. マナー

I-8	_____
I-9	_____

③ 人づきあい

- I-10. 自主的なつきあい
- I-11. 援助者とのつきあい
- I-12. 友人とのつきあい
- I-13. 異性とのつきあい

I-10	_____
I-11	_____
I-12	_____
I-13	_____

3. W (Work) / 労働または課題の遂行

(0) (1) (2) (3) (4)

- W-1. 役割の自覚
- W-2. 課題への挑戦
- W-3. 課題達成の見通し
- W-4. 手順の理解
- W-5. 手順の変更
- W-6. 課題遂行の自主性
- W-7. 持続性・安定性
- W-8. ペースの変更
- W-9. あいまいさに対する対処
- W-10. ストレス耐性

W-1	_____
W-2	_____
W-3	_____
W-4	_____
W-5	_____
W-6	_____
W-7	_____
W-8	_____
W-9	_____
W-10	_____

4. E (Endurance & Stability) / 持続性・安定性

- E-1. 現在の社会適応度
- E-2. 持続性・安定性の傾向

0 — 1 — 2 — 3 — 4 — 5
0 — 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6

E-1	_____
E-2	_____

5. R (self-Recognition) / 自己認識

(0) (1) (2) (3) (4)

- R-1. 障害の理解
- R-2. 過大(小)な自己評価
- R-3. 現実離れ

R-1	_____
R-2	_____
R-3	_____

フェイスシート II

<評価対象者の病歴・生活歴・問題行動など>

(わかる限り記載して下さい。不明の場合、特に指示がなければ、〇〇と記載して下さい)

9. 推定発病年齢	9	_____
10. 精神科入院回数 (入院経験無しは〇と記入)	10	_____
11. 精神科通算入院期間 (入院経験無しは〇と記入、3年以上の場合は月数不用)	11	_____年 ____月
12. 発病前の最長の就業年数 (雇用関係を結んだ職場、3年以上の場合は月数不用)	12	_____年 ____月
13. 発病後の最長の就業年数 (雇用関係を結んだ職場、3年以上の場合は月数不用)	13	_____年 ____月
14. 生活臨床でいう生活類型 ① 能動型 ② 受動型 ③ 未定・不明 (生活類型については「記入マニュアル」を参照)	14	_____
15. 自殺企図 (自傷を含む) ① 無し ② 過去1ヵ月以内にあった ③ 過去1ヵ月から1年以内にあった ④ 過去1年以前にあった ⑤ 不明	15	_____
16. 他者への暴力行為 ① 無し ② 過去1ヵ月以内にあった ③ 過去1ヵ月から1年以内にあった ④ 過去1年以前にあった ⑤ 不明	16	_____
17. 性的逸脱行動 (露出・接触・性的強要) ① 無し ② 過去1ヵ月以内にあった ③ 過去1ヵ月から1年以内にあった ④ 過去1年以前にあった ⑤ 不明	17	_____
18. 問題飲酒 (生活の破綻につながるような度を越した飲酒) ① 無し ② 過去1ヵ月以内にあった ③ 過去1ヵ月から1年以内にあった ④ 過去1年以前にあった ⑤ 不明	18	_____
19. 慢性幻覚妄想状態 (ここでは妄想が顕在化しているものばかりでなく、自己の妄想の世界を他者に明らかにしないで、表面的には妄想がないかのように見え、潜在化している状態にも注意する。) ① 慢性幻覚妄想状態はない ② 潜在化した慢性幻覚状態が見られる ③ 顕在化した慢性幻覚状態が見られる ④ 不明	19	_____

障害者労働医療研究会 精神障害部作成

事務局：東京都小平市小川町 2-1159

共同作業所全国連絡会内

TEL 0423-45-1229

FAX 0423-45-1295

